

学校経営目標	担当部署	目標達成のための具体的計画	現状及び今年度の達成基準	中間達成状況と評価		最終達成状況と評価	
				達成状況	評価	達成状況	評価
1 学習指導の充実	教務課	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICT機器を活用した授業を推進し、授業力の向上を図り、生徒の学力を伸ばすために、機器の使用法や授業実践を紹介する研修の場を設ける。</li> <li>生徒個々の学力を効果的に伸ばすために習熟度別授業の形態・内容を工夫し、システム化を図る。</li> </ul>	<p>[現状]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教員が機器の使い方がわからない場合があり、まだICT機器の効果的な活用について研修する余地がある。</li> <li>各教科主体で習熟度別授業の形態・内容を検討し、実施しているため学校全体のまとまった取り組みと感している。</li> </ul> <p>[今年度の達成基準]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>使用方法の説明や実践例を紹介する研修や授業公開が年間5回程度実施できた。</li> <li>特に1年生の習熟度別授業について、各授業の説明の機会を設け、生徒の希望集計を行い、学年主任、教科担当者と共に適切な選択を生徒に助言できた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>4月に新任者・転任者を中心に、教室に設置されているICT機器の使用法についての研修会を行い、約25名の参加があった。2学期以降はセットトップボックス(AppleTV)やタブレット端末(iPad)の使用など、ICT機器を活用した授業を各教科からあらかじめ情報を得て、それを広くアナウンスすることで、ICT機器活用の実践を参観しやすくし、授業改善を促進していく予定である。</li> <li>各学年の教務係が中心となり、学年主任、教科担任と連絡をとり、習熟度別授業についての説明および選択について情報共有を行った。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>4月に新任者・転任者を中心に、教室に設置されているICT機器の使用法についての研修会を行い、約25名の参加があった。</li> <li>初任研修や2年目研修、指導教諭における公開授業でICT機器を用いた授業実践を公開し、研修した。アンケートによるICT機器使用率は84%であった。</li> <li>3月にセットトップボックス(AppleTV)やタブレット端末(iPad)の使用法の研修会を開催する授業についても紹介し、授業改善を促進していく。</li> <li>アンケートでは86.9%の生徒が「先生は授業の指導内容や指導方法について工夫をしている」に肯定的な回答をしている。</li> <li>各学年の教務係が中心となり、学年主任、教科担任と連絡をとり、習熟度別授業についての説明ならびに選択について情報共有を行うことができた。今後は、生徒の選択状況について学年会などでも随時協議題として取り上げ、担当教科の教員だけでなく、より多くの教員による指導助言が行えるよう検討したい。</li> <li>アンケートでは85.0%の生徒が進路目的別クラス編成に肯定的な回答をしている。</li> </ul>	B
	進路指導課	<ul style="list-style-type: none"> <li>学年会で結果について検討を行い、教科毎の弱点を見つけ、改善を促す。</li> <li>基礎学力の充実のためにスタディーサポートを年1回以上実施し、結果についての検討会を行う。課題を学年で共有し、対策を立てる。</li> <li>応用学力の伸長のためハイレベル模試を年1回以上実施する。結果は学年会で検討し、学年で課題と対策を共有する。</li> <li>主体的な学習活動を支援するための教育環境の整備を行うために土曜活用講座を月2回以上行う。講座内容を各教科と協議して習熟度別に複数の講座を立てるようにする。</li> </ul>	<p>[現状]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>現状の学力は3教科総合で1月記述平均点偏差値は1年生が49.1、2年生が46.7であり、3年10月記述は45.0であった。年々入学してくる生徒の学力が下がっている状況が続き全国偏差値50を超えるのは難しい現状である。</li> </ul> <p>[今年度の達成基準]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>校外模試の3教科の全国偏差値54以上の人数(1年)                     <ul style="list-style-type: none"> <li>A: 25%以上 B: 20~25%</li> <li>C: 20%未満</li> </ul> </li> <li>校外模試の3教科の全国偏差値54以上の人数(2年)                     <ul style="list-style-type: none"> <li>A: 23%以上 B: 18~23%</li> <li>C: 18%未満</li> </ul> </li> <li>校外模試の5教科の全国偏差値52以上の人数(3年)                     <ul style="list-style-type: none"> <li>A: 20%以上 B: 15~20%</li> <li>C: 15%未満</li> </ul> </li> <li>岡山大学の合格者数                     <ul style="list-style-type: none"> <li>A: 15人以上 B: 10人~14人</li> <li>C: 10人未満</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>7月進研記述の結果</li> <li>一校外模試3教科平均点偏差値(7月進研記述)                     <ul style="list-style-type: none"> <li>1年 3教科の全国偏差値54以上の人数 20%</li> <li>3教科平均点偏差値 48.4</li> </ul> </li> <li>2年 3教科の全国偏差値54以上の人数 19%</li> <li>3教科平均点偏差値 47.2</li> <li>3年 5教科の全国偏差値52以上の人数 21%</li> <li>5教科平均点偏差値 45.5</li> </ul> <p>目標達成の具体的計画である実力考査・校外模試などの検討会はその学年も計画的に行っている。土曜活用講座も現在までは計画通りに行っている。講座の内容は1・2年はほとんどの教科で複数の講座を立てている。3年は受験が近いこともあり、26という多くの講座を立てて生徒が自分にあった講座を選べるようにしている。校外模試の結果はどの学年も平均点偏差値は少し低いが、国公立を狙える層は達成基準のBの数値をかなり上回っている。しかしその数値はわずかなので、目標を達成するための具体的計画である実力考査・校外模試などの検討会を通じて、各教科へは基本的事項の確認と個別指導の徹底、担任には面談を通じて個々の生徒に対する効果的な助言や方策を指示していきたい。</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>1月進研記述の結果(3年は10月)                     <ul style="list-style-type: none"> <li>一校外模試平均点偏差値(1月進研記述)                             <ul style="list-style-type: none"> <li>1年 3教科の全国偏差値54以上の人数 21%</li> <li>3教科平均点偏差値 47.0</li> </ul> </li> <li>2年 3教科の全国偏差値54以上の人数 18%</li> <li>3教科平均点偏差値 47.2</li> <li>3年 5教科の全国偏差値52以上の人数 17%</li> <li>5教科平均点偏差値 42.5</li> </ul> </li> </ul> <p>目標達成の具体的計画である実力考査・校外模試などの検討会はその学年も計画的に行っている。特に3年生の進路検討会は担任の先生方に調べておくことなどを事前に示して検討会を行い、三者面談に活かしている。土曜活用講座も現在までは計画通りに行っている。講座の内容は1・2年はほとんどの教科で複数の講座を立てている。3年は受験が近いこともあり、26という多くの講座を立てて生徒が自分にあった講座を選べるようにしている。校外模試の結果は平均点偏差値の国公立を狙える層の達成基準のBの数値を少し上回った。しかしその数値はわずかなので、目標を達成するための具体的計画である実力考査・校外模試などの検討会を通じて、各教科へは基本的事項の確認と個別指導の徹底、担任には面談を通じて個々の生徒に対する効果的な助言や方策を指示して来年度は目標を大きく上回りたい。3年生は現在推薦AO入試で岡山大学に合格した人数が10人であり、すでに目標の「B」に到達できた。一般入試でも10人以上の合格者が出るように指導中である。</p>	B
	図書課	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の主体的な学習活動を支援するために</li> <li>古くて利用頻度の低い書籍の廃棄を計画的に行い、開架図書が利用しやすいようにする。</li> <li>教科指導・総合学習との連携を推進する。</li> <li>特設コーナー 教科内容に応じた展示</li> <li>広報活動 「図書まが」や図書館便りの内容をグレードアップする。</li> <li>新聞切り抜きの利用推進 各教科と連携</li> <li>小中高校向けオンライン記事データベース「朝日けんさくくん」を導入する。</li> <li>生徒公開系から蔵書検索ができるようにする。</li> </ul>	<p>[現状]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>古くて使用頻度の低い書籍が多く、開架図書の閲覧がしにくい。</li> <li>県立図書館から借りられる書籍が多い。</li> <li>分類の表示が見えにくく、図書館が狭く感じられる。</li> </ul> <p>[今年度の達成目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>分類表示を工夫し開架図書が見やすいように配置換えをする。</li> <li>図書館の使用についてのアンケートにより、図書館利用の実態を把握し、利便性を増す。</li> <li>利用者数を増やす。                     <ul style="list-style-type: none"> <li>A: 貸し出し数の増加 B: 貸し出し数が現状維持</li> <li>C: 貸し出し数が減少</li> </ul> </li> <li>教科指導や総合学習への適切な支援を行う。                     <ul style="list-style-type: none"> <li>A: 支援ができる C: 支援ができない。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>図書室の開架図書の改善は進んでいる。</li> <li>アンケートは未実施。(3月に実施予定)</li> <li>総合的な学習については、2年生の利用が活発である。また、文化祭では、図書室のパソコンがよく利用されていた。司書のレファレンスサービスもよく利用されていた。後半では、保健の授業などで、教科指導の支援に力を入れていきたい。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>書籍の整理と配置換えが進み、書庫、開架ともに閲覧しやすくなった。国語科と連携して古典の日の展示や書籍の紹介コーナーを設けた。</li> <li>総合的な学習の時間や小論文の学習において図書館を利用する頻度が高い。</li> <li>本年度の特徴としては、全体の貸し出し数は前年度より減少しているが、文学・コミック以外の分野の貸し出しが増加している。(特に自然科学:前年度+3%、社会科学:前年度+4%)年間貸し出し数は、2912冊、コミック以外は2765冊(26年度は4248冊、コミック以外3723冊)。</li> <li>1年生は、夏の特別時間割授業において、読書の時間を全クラス4時間設けた。2年生は、2学期にHR読書会を実施。一つの文学作品をクラス全員で読んでグループ討議を行った。「何気なく読書するよりも内容を深く理解できた。」「読書をしたくなった。」「もっと時間をとってやりたかった。」等の感想が得られた。若者の活字離れが危惧されているが、読書好きな生徒が7割以上である。貸し出し数が減少した点はCだが、教科指導や総合的な学習の時間の支援ができた点はAなので、総合評価はB。</li> </ul>	B
	厚生課	<ul style="list-style-type: none"> <li>保健委員による保健指導・保健管理をおこなない、学習環境を整える。現在おこなっている活動に加えて、教室の空気検査や水質検査をおこなう。</li> <li>基本的な生活習慣の確立を目標にほけんだよりを発行し、健康的な生活が学習能率を高めることを理解させる。</li> <li>整美委員会の活動を活性化。毎月清掃点検を行い各クラスに点検結果を連絡し美化意識の向上を計る。また、生徒会等と連携しボランティア活動の機会を増やし美化意識とともにボランティア精神を養う。</li> <li>自然災害・防災についてのテーマを総合学習に取り入れ、生徒が自ら自然災害や防災についての意識を高められるようにする。</li> </ul>	<p>[現状]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ほけんだよりの発行など定期的に行うことができているが、自主性を高める工夫をする必要がある。</li> <li>清掃点検は行っているがクラスへの連絡が徹底していないようだ。一人一人の美化意識の向上はみられるがまだまだである。</li> <li>玉島地域の地形を理解していない。自然災害に対する意識も欠如している。</li> </ul> <p>[今年度の達成基準]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>保健委員会の活動回数                     <ul style="list-style-type: none"> <li>A: 月に15日以上 B: 月に10日以上 C: 月に5回以上</li> </ul> </li> <li>整美委員会主催のボランティア清掃活動を年間3回以上行う。また、校外のボランティア清掃活動を年間3回以上行う。</li> <li>学校アンケートの防災について理解しているかの質問項目で、そう思うの割合が70%以上になる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ほけんだよりの発行は定期的に行うことはできている。自主性を高める工夫としては、毎月の内容は作成担当者で考えさせること。作成後に自分自身で何を伝えたくて作成したのかをまとめ、保健委員が各クラスで終礼連絡ができるような連絡原稿も作るように指導をはじめたところである。</li> <li>保健委員会の活動は、日常業務があるため毎日誰かは活動をしている計画となっている。しかし、1学期は日常業務の当番を守れない生徒が多かった。そのため、当番の順番を2学期は変更し再度当番を守り、日常業務が行えるように指導をしている。</li> <li>整美委員会主催のボランティア清掃活動は前期で校内清掃を2回行った。後期は校外のボランティア清掃活動を行う予定である。清掃点検を行い清掃活動の充実を図りたい。</li> <li>防災については1年生を対象に研修を行う予定である。また、2年生の総合学習で防災をテーマに研究班をつくり活動している。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>ほけんだよりを月1回出すことができた。内容は生徒自身が調べてきて、それを元に紙面を作成し、終礼連絡の原稿も自分たちで作成できた。終礼連絡は担任に時間をとってもらったことにより、活動も自分たちでやるようになった。そのため、平日は毎日活動ができており、月に15日以上活動できた。</li> <li>整美委員によるボランティア清掃活動は後期2回行った。校外のボランティア清掃活動や校内の点検は今後実施していく予定である。また、清掃点検カードを整美委員に持たせており、普段から学校環境に目を配らせている。</li> <li>1年生を対象に防災LHRを行った。また、1月には緊急地震速報を活用した防災訓練を行い、抜き打ちの防災訓練も今後行う予定である。</li> </ul>	B

学校経営目標	担当部署	目標達成のための具体的計画	現状及び今年度の達成基準	中間達成状況と評価		最終達成状況と評価	
				達成状況	評価	達成状況	評価
	教育相談室	<ul style="list-style-type: none"> <li>■問題を抱えた生徒に早めに対応し、学習活動を支援するために、定例会議を実施し、生徒・保護者・教員が教育相談日を利用しやすいよう広報活動を行う。</li> </ul>	<p>〔現状〕 定例会議は毎週1回を基本に実施している。カウンセリング後のスクールカウンセラーとの振り返り時間を設定している。年度当初は相談者が多く、場合によっては、次回にしてもらう場合もある。「相談室便り」の発行等の広報活動は、十分にできていない。</p> <p>〔今年度の達成基準〕 ■自己評価アンケートの悩んだり困ったりした時に、先生は親身になって相談に応じてくれる項目で「そう思う」が A: 50%以上 B: 30%以上 C: 20%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■不登校生徒は例年より少ない。担任の先生方の協力による場所が大きいと思われる。この傾向を続けていけるよう、問題を抱えた生徒を定例会議などで早めに把握し、支援をしていきたい。</li> <li>■保護者・生徒向けの広報を学期に1回は出している。これを見た保護者からの申し込みもあるので3学期も配布したい。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>■自己評価アンケートの結果では、悩んだり困ったりした時に、先生は親身になって相談に応じてくれる項目で「そう思う」が生徒37.5%、保護者33.0%であった。</li> <li>*参考 昨年度 「そう思う」生徒36.8% 保護者32.7%</li> <li>■中間達成状況の評価以降に、不登校の生徒数が急激に増加した。ただし、担任の先生方が密に保護者や生徒と連絡を取り合うことにより、長期間連続して欠席している生徒数は少ない。</li> <li>■保護者・生徒向けの広報を学期に1回は出せた。</li> </ul>	B
	人権教育推進室	<ul style="list-style-type: none"> <li>■人権教育係の会議を定期的に行き、人権LHRの反省や情報交換を行う。</li> <li>■人権教育LHRの指導案の中には資料の古いものもあるので、指導案を見直し、内容を精選する。</li> <li>■人権問題に関する学校の取り組み状況や社会情勢について、保護者への啓発を図るために、「人権だより」を作成する。</li> <li>■生徒を取り巻く人権問題について教職員の理解を深めるために、講演会を実施する。</li> <li>■人権についての講演会に積極的に参加し、職員会議等で報告する。</li> </ul>	<p>〔現状〕 児童生徒を取り巻く環境は目まぐるしく変化し、特に昨今は児童虐待やネット上のトラブルが社会問題となっている。人権意識の高揚は喫緊の課題である。</p> <p>〔今年度の達成基準〕 自己評価アンケートを活用する。 ■先生はいじめやからかいを見逃さず対応してくれる ■人権や社会のルールについて学ぶ機会が十分にある 以上2つの項目でそれぞれ A: そう思うの計が60%以上 B: そう思うの計が40%以上 C: そう思うの計が40%未満 ■人権LHR実施後のアンケートで、生徒が人権問題について理解を深めたか確認する。 A: そう思うの計が60%以上 B: そう思うの計が40%以上 C: そう思うの計が40%未満</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■自己評価アンケートはまだ実施されていない。</li> <li>■諸般の事情により、1学期に人権LHRを実施できたのは3年生だけである。1・2年生は2・3学期で3回の人権LHRを実施する予定である。そのため、まだ人権LHRの後の係会が実施できていない。10月に3年生2回目の人権LHRがあるので、その後、係会を実施したい。</li> <li>■2学期から3学期にかけては、人権の研修・出張が多くあるので、係会でその報告をしたり、内容によっては人権だよりで紹介したい。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>■係会議を定期的に行き、人権LHRの反省や情報交換を行った。今後のLHRでの指導案作成に生かしたい。</li> <li>■ハンセン病、いじめに関する指導案を全面的に見直した。ハンセン病は生徒たちの「ふりかえり」を見ると、関心の高さが分かり、意欲的に討議もできていた。いじめは「ネットいじめ」を取り上げ、ICTを活用した内容にした。</li> <li>■人権問題に関する学校の取り組み状況や社会情勢について、保護者への啓発を図るために、「人権だより」を学期に1回発行した。</li> <li>■教職員研修として、「ネットモラル」を取り上げた。生徒や保護者にも聞かせたいとの意見を多数いただいた。</li> <li>■人権についての講演や発表をいくつか聞く機会があったが、同和問題などは職員会議等で報告するには至っていない。</li> <li>■自己評価アンケートでは、「いじめ」の場合のそう思うの割合が32.4%、「人権」の場合40.1%</li> <li>■人権LHR後のアンケートでは、そう思うの割合が1年66%、2年70%、3年55%</li> </ul>	B
	理数科・SSH	<ul style="list-style-type: none"> <li>■科学技術に意欲・能力の高い生徒を育てるための特色ある理数系科目である「科学と工学」や「玉島サイエンスラボ」の内容を精選し、充実させる。</li> <li>■課題研究の指導を充実させる。</li> </ul>	<p>〔現状〕 理数科2年生を対象に、物、化、生分野の「玉島サイエンスラボ」を実施しているが、数学分野の特色ある科目は実施されていない。研究施設体験を年1回行っている。(理数科1年、理数科2年)</p> <p>〔今年度の達成基準〕 ■SSH意識調査で「理科・数学の理論・原理への興味」、「考える力」が「大変増した」と「やや増した」と回答する生徒が合わせてそれぞれ A: 50%以上 B: 30%以上 C: 30%より低い</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■A: 日本学生科学賞等の国際大会へつながるコンテンツで中央予備審査を通過する論文があった。</li> <li>■B: 日本学生科学賞等国際大会へつながるコンテンツにすべてのグループが応募した。</li> <li>■C: 日本学生科学賞等全国レベルのコンテストに応募</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■「玉島サイエンスラボ」は物理、化学、生物の各分野ごとに1学期に1回ずつ実施できた。2、3学期にも1回ずつ実施を予定しているが、理科への興味、考える力をつけるようなサイエンスラボを計画中である。意識調査はその後行う。</li> <li>■科学と工学では、評価のためのルーブリック集をまとめ、より客観的な評価が行えるようにした。</li> <li>■課題研究はSSH運営指導委員会でのアドバイスも参考に、個々の生徒に応じた研究の進め方を行っている。</li> <li>■高校生科学技術チャレンジ(JSEC)に、課題研究成果の全作品を応募した。</li> <li>■化学グランプリで、理数科1名が一次選考を通過し全国大会で銅賞を受賞した。これにより日本化学会中国四国支部長賞を受賞した。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>■「玉島サイエンスラボ」では、大学レベルの内容に踏み込みながらも、作業の意味が分かりやすい実験を行い、事後アンケートでは「興味・関心が高まった」が91%、「発展的な内容をもっと学習したい」が90%と、肯定的な回答が多かった。</li> <li>■高校生科学技術チャレンジ(JSEC)に、3年生の課題研究を応募したが、入賞できた作品はなかった。生徒の自主的な探究過程を重視しながらも、科学的な探究過程を踏まえた指導を行って、より完成された形に持っていきたい。2年生の課題研究は、県内4校合同発表会で優秀賞を得たものがあり、発展課題研究で継続する予定である。</li> <li>■化学グランプリでは、日頃の活動及び事前指導がうまく功を奏し、よい結果を残した。</li> </ul>	B
	3年	<ul style="list-style-type: none"> <li>進路実現のために、生徒が自主的に、そして計画的に学習できるように指導する。具体的にはロングホームルームやTACTなどを利用して、個々の課題に対して学習計画書を作成させ、それを実行させる。</li> </ul>	<p>〔現状〕 計画的な学習を苦手としている生徒が多い。</p> <p>〔今年度の達成基準〕 ■校外模試や実力テストの前に学習計画書を作成させ、その計画を実行できたかどうかを学年独自の振り返りアンケートで調査する。 計画を実行できた生徒の割合が A: 85%以上 B: 70%以上 C: 70%未満</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■9月に実施した学習アンケートでは、「校外模試や実力考査で、1・2年時よりも自分で学習計画を立てて実行することができている」と回答した生徒は約54%であった。今後は10月から11月に行われる校外模試や実力考査に向けて、弱点補強などに計画的に取り組むよう授業や面談を通して指導していきたい。</li> </ul>	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>■一般入試受験者への指導だけでなく、AO・推薦入試で進学先が決定した生徒にも、進学後のことを考え弱点補強や得意科目のさらなる伸長に取り組むよう指導した。3学期始業式に実施した冬休みの振り返りアンケートでは進路決定者の74%、進路未決定者の83%が冬休みに計画的に学習に取り組むことができたことと回答しており、指導の効果がたと感じている。</li> </ul>	B
	2年	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の主体的な学習活動を支援するために、個人面接を通して生徒の目標や学力に合わせた適切なアドバイスをを行う。具体的な方策として、保護者懇談や生徒面談に活かせるように、教員対象の研修会を実施する。</li> </ul>	<p>〔現状〕 1年次の文理・科目選択を受けて、2年次には高い進路目標に向けて継続的に努力させることが課題である。</p> <p>〔今年度の達成基準〕 ■学校自己評価アンケートで、個人面接での学習アドバイスが役立った(そう思う)と答えた生徒の割合 A: 60%以上 B: 50%以上 C: 50%未満 ■第2回学習実態調査での学習時間 A: 平均3.0時間以上 B: 平均2.8時間以上 C: 平均2.8時間未満 ■第3回学習実態調査での学習時間 A: 平均3.5時間以上 B: 平均3.0時間以上 C: 平均3.0時間未満</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■第2回学習実態調査の平均学習時間は3.2時間となった。休日10時間チャレンジと称して学習時間の伸張を図った成果と思われる。ただ、個人差があるので、全体の底上げができるように、個人面談等での声かけを行っていきたい。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>■学校自己評価アンケートで、個人面接での学習アドバイスが役立った(そう思う)と答えた生徒の割合は40.8%で、「ややそう思う」と答えた生徒を合わせると89%であった。生徒の実態に合わせて、より具体的なアドバイスを行う必要がある。</li> <li>■第2回学習実態調査では学習時間の伸長が見られたが、第3回調査では平均学習時間が0.2時間減ってしまった。長期休業中や、休日、休日の前日にも生活リズムを崩すことなく恒常的に家庭学習時間を確保する姿勢を身につけさせなければならない。</li> </ul>	B
	1年	<ul style="list-style-type: none"> <li>■基礎学力の定着を図るために、学習実態調査をもとに個別指導を行い、予習・授業・復習の学習習慣を確立させる。</li> <li>■進路実現を目指して主体的に学習に取り組む姿勢を育てるために、授業・LHR・面談などを連携して効果的な指導に努める。</li> <li>■成績上位者の応用力を育成するために、習熟度別授業を活かし、個々の習熟度に応じたきめ細かい指導を行う。</li> </ul>	<p>〔現状〕 家庭での学習習慣を確立させ、学力向上を目指して主体的に取り組む姿勢を育てる必要がある。</p> <p>〔今年度の達成基準〕 ■家庭学習時間(学習実態調査) A: 平均3.0時間以上 B: 平均2.5時間以上 C: 平均2.5時間未満 中間期は学習実態調査の第2回、最終期は第2回と第3回の平均で判断する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■第2回学習実態調査の平均学習時間が2.2時間であり、中間評価はCとなった。習熟度別授業を活かした学習指導により、授業での取り組み状況は悪くないが、家庭学習の習慣が身につけていない。放課後を利用して、課題の提出指導を行ってきたが、期限を守って提出出来るよう指導していく必要がある。</li> </ul>	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>■学習実態調査の第2回と第3回の平均学習時間が2.3時間であり、目標の2.5時間を超えることが出来ず、最終期の評価はCとなった。授業中の学習態度も良く、学習に対する意欲が感じられるが、家庭学習時間が伸びない。今後さらに自学習の習慣を身につけるような、具体的な指導を計画する工夫が必要である。</li> </ul>	C

学校経営目標	担当部署	目標達成のための具体的計画	現状及び今年度の達成基準	中間達成状況と評価		最終達成状況と評価	
				達成状況	評価	達成状況	評価
	国語科	<p>■生徒の学力を向上させるために、思考力、表現力を伸ばす授業を行うとともに、自主的な学習習慣がつくように指導する。</p> <p>■生徒の学力を向上させるための、教員個々の個性を生かした授業改善（ITの深化・グループ学習の工夫・生徒同士が伝え合う授業作り・ICT機器を用いた効率的な取り組みなど）を行い、お互いの授業を年間50回以上見せ合うことで切磋琢磨する。</p>	<p>〔現状〕 T Tや、グループ学習、少人数での教え合い、ICT機器の活用等、それぞれの教員が生徒の実態を見ながら、指導法の研究を続け、それなりの成果を上げている。しかしながら、入学時点での学力が徐々に下がってきており、一層の工夫をしなければ、目標とする数値を維持することは困難である。</p> <p>〔今年度の達成基準〕 ■外部模試成績（進研11月記述平均点偏差値） A：全学年が進研模試で偏差値50以上になる B：全学年が進研模試で偏差値48以上になる C：いくつかの学年が進研模試で偏差値48未満である</p>	<p>■7月に行われた校外模試の結果は、1年生の平均点偏差値が49.7、2年生が49.7、3年生が47.5であった。全学年が48以上となることが、達成目標であるので、中間評価としては、Cとする。3年生は進路目的別クラス編成を敷いている影響か、上位層下位層の成績の幅が大きく、下位層の指導がやりにくい環境にあるため、平均点偏差値で測ることにしている目標を達成することはかなり困難であると思われる。しかしながら、実際に入試で戦える偏差値60以上の数は、過去5年で見ても遜色がないので、それほど心配しなくても大丈夫であると考ええる。</p>	C	<p>■11月に行われた校外模試の結果は、1年生の平均点偏差値が48.5、2年生が51.1、3年生が46.0であった。1年生は7月に比べて1ポイント近く下げたが、2年生は前回から1ポイント以上伸ばし、非常に良く健闘している。3年生は早々に推薦入試で進路を決定する者が多く、クラスによっては授業に気持ちを向かせることが極めて困難な時期であるため、下位層の取り組みがよろしくなく、ますます成績を下げている。全学年が48以上となることが達成目標であるので、最終評価はCとするべきであるかもしれないが、2年生の健闘及び3年生も実際に入試で国語を使って受験している偏差値60以上の度数は過去5年で見ても遜色がないという状況を加味して、最終評価はBとする。なお、来年度以降、目標達成を測る指標として平均点偏差値はふさわしくないため、度数で見てもいいことも検討したい。</p>	B
	数学科	<p>■自主的な学習習慣を身につけさせるために、予習・復習の習慣化を図り、課題の提出期限厳守等の指導をする。</p> <p>■自分自身で課題を発見し、問題を解決できる自主・自立的な学習態度を身につけさせる。</p> <p>■個々の学力を伸ばすために習熟度別授業により授業内容の研究や生徒の学力に応じて課題を精選するなどの個に応じた指導の充実を図る。また、ICTを活用するなど、それらのより効果的な指導方法について研究・実践する。</p>	<p>〔現状〕 生徒の学力差が大きく、個に応じた課題が必要である。学習状況では宿題や課題で精一杯の生徒が多く、自主的な学習への取組が出来ている生徒は少数である。また、じっくり考える生徒は少なく、学力がついていないのが現状である。</p> <p>〔今年度の達成基準〕 ■外部模試成績（10月、11月進研模試） 【1、2年】（平均点偏差値） A：50以上 B：47～50未満 C：47未満 【3年】（平均点偏差値52以上） A：20%以上 B：15%～20%未満 C：15%未満</p>	<p>■7月進研模試で1年生の平均点偏差値は49.8でまずまずであった。2年生の平均点偏差値は46.8で前回の1年次の1月模試の49.5からは3ポイント近くとずいぶん下がった。3年生は平均点偏差値52以上の割合がXでは38.4%、Yでは25.0%で結構頑張っているが、Zが10.9%とかなり低い。総合すると21.1%と達成基準のAの評価であるのでまずまずの成績であるが、教科の特性上Zの生徒に頑張ってもらいたい。Zの生徒は「数Ⅲ」というハードルの高い科目を選択しているが、受験の可能性がずいぶん増えるのであきらめず、いわゆる2次試験や記述試験に向かって努力してもらいたい。これからの指導法としては個別の対応になる。講座を設けながら基本的には添削指導になる。数学科では全員の教員で手分けして指導に当たる。</p>	B	<p>■1年生の平均点偏差値は11月期47.6で7月期49.8から2ポイント以上ダウンした。達成基準においてもぎりぎりB評価にとどまっているという状況で1月期でも挽回したい。2年生の平均点偏差値は11月期46.7で、7月期46.8とあまり変わらない結果であった。変化は少ないが7月期から新しい分野を多く学習してきているので、2年生の現状からするとしっかり課題等に取り組み、現状維持できている。3年生は10月記述の平均点偏差値52以上の割合はXでは28.5%、Yでは20.9%であるが、Zが12.0%と低い。しかし、7月期の10.9%よりは少し改善されている。総合すると20.0%と何とか達成基準のA評価といったところである。また11月マークの平均点偏差値は数学①では21.7%とまずまずの結果であるが、数学②では8.9%と悪い結果であった。これまでの学習の経緯から数学ⅡB、数学Ⅲの指導に課題があり、多くの補充を行ってきたが、なかなか学力に繋がっていないのが現状である。センター試験までマーク試験対策にあてて、センター試験後は数学を個別試験等で使う生徒の補充を行っていく予定である。講座を設けるものの個別の添削指導が中心になる。数学科では例年、全員の教員で手分けして指導に当たり、ひとりでも多くの進路実現を果たしていく。</p>	B
	英語科	<p>■生徒が自主的に学習に取り組む態度を身につけさせるために、生徒の学習状態を把握し、予習・復習・課題の内容を精選し、意欲的に取り組める工夫をする。</p> <p>■生徒の学力向上のために、進路目的別クラスや習熟度別授業を生かしつつ、教師は互いの授業を見学し合い、見学後に振り返りを行うことで、教授法や教材研究に努め、授業力を向上させる。</p> <p>■より分かりやすく、内容を深めた授業を実践するために、ICTの効果的な授業での活用方法を模索する。</p>	<p>〔現状〕 ■英語学習に対する意欲が低く、英語の学力が全国レベルより低い生徒が多い。</p> <p>〔今年度の達成基準〕 ■外部模試（進研模試10月記述平均点全国偏差値） 【1・2年】 A:50以上 B:47～50未満 C:47未満 【3年】 A:49以上 B:46～49未満 C:46未満</p> <p>■授業見学の回数（教員平均） A:5回以上 B:3回～5回未満 C:3回未満</p> <p>■分析・反省会の回数 A:3回以上 B:2回 C:2回未満</p>	<p>■7月進研模試 1年 平均点偏差値 46.6 2年 平均点偏差値 47.3 3年 平均点偏差値 48.7 1年生は文法問題に関しては、授業で中学校の復習を行った成果が出ているが、リスニングが弱いので授業中に問題集を用いて取り組みを始めた。</p> <p>2年生は成績を上げてきている。習熟度別の課題を取り入れながら、下位層の引き上げや上位層をさらに伸ばしていく。3年生は相変わらず40以下の層が厚いが、最上位層が多くなってきた。国立大学個別試験対策も視野に入れながら、表現力アップを目指した授業を展開していく。</p> <p>■授業見学回数 平均 1.77 回 ■分析・反省会 1回</p>	B	<p>■11月・10月（記述）進研模試 1年 平均点偏差値 46.4 2年 平均点偏差値 46.7 3年 平均点偏差値 44.8 1年生は偏差値50以上の生徒数は増加したものの、40以下の層が増えたために、7月より平均点偏差値が少し下がった。2年生は50以上の層で人数が減り、44以下の層が厚くなっている。1・2年生ともに、文法語法の問題は他校と比較しても健闘しているが、長文読解の問題の出来がカギになっている。自宅学習用の長文読解問題集を取り入れながら、読解力を向上させている。また、3年生は7月までは健闘したものの、10月記述では踏みとどまることができなかった。発展コースのクラスでは、授業でも記述を意識した問題集を学習させた結果、上位層は増えたが、標準コースのクラスはマーク式に取り組み、記述式の問題離れが加速していったためと考えられる。</p> <p>■授業見学回数 平均 3.66回 ■分析・反省会 3回</p>	B
	地理歴史・公民科	<p>■資料・地図・統計・図説などに関して、生徒たちがこれらを理解するための思考力、表現力を伸ばせる授業づくりをする。この目的を達成するために、授業中に生徒たちにじっくり考えさせる場面を与える。</p> <p>■さらに、生徒たちの学力向上のために、教員間の授業見学、他校の公開授業見学、教科会議での教員間の意見交換を実施し、生徒の学習状態を踏まえた上で、小テストの導入や諸考査の問題作成の工夫など、より効果的な指導方法について研究・実践を行う。</p>	<p>〔現状〕 多くの生徒たちが、時間的・空間的な思考力・表現力に欠ける傾向が見られる。</p> <p>〔今年度の達成基準〕 1年 生徒授業アンケートの「授業中にじっくり考える場面がありますか。」の「いつもある」が A：60%以上 B：50%～59% C：50%未満 2年 校外模試の全国偏差値54以上の人数が A：23%以上 B：20～23% C：20%未満 3年 センター試験自己採点の得点が A：全国平均点以上 B：全国平均点の90%～99% C：全国平均点の89%以下</p>	<p>■1年生と2年生は、アンケート・模試を実施していないので、客観的な資料はないが、課題の提出状況も良く、小テストの結果も良好である。また学習実態調査を分析すると、特に2年生で4月に比べ9月の学習時間が増える結果となっている。3年生は、ICTの利用や授業プリント作成により、授業を工夫し、生徒たちに1時間の授業で1回以上考えさせる機会を与える授業づくりを実施している。さらに全体としては、生徒たちの学力向上のために、教員間の授業見学、教科会議での教員間の意見交換なども実施している。</p>	B	<p>■1年の生徒授業アンケートの「授業中にじっくり考える場面がありますか。」の問いに、①いつもあると答えた生徒が、16%であった。2年の11月進研記述模試で、全国偏差値54以上の人数は、日本史31/129(24%)、世界史17/153(11%)、地理24/136(18%)、地歴3科72/418(17%)であった。3年生はセンター試験の実施前なので分析はできないが、2年と同様に11月マーク模試の結果（玉島平均点/全国平均点・%）にあてはめると、日本史(43.0/53.6・80%)、世界史(54.4/51.5・106%)、地理(40.0/52.8・76%)、現代社会(44.6/50.0・89.2%)であった。以上の結果より、各学年の達成基準にあてはめ、最終評価をCとする。</p> <p>地歴・公民科では、年度当初の目標を達成するために、①授業中に生徒たちにじっくりと考えさせる場面を与えようとした。しかし、結果は「たまにはある(31%)」が最も多い数値となった。われわれ教師たちが思っていた以上に、生徒たちに考える機会を与えていなかった。今後もよりいっそう良い授業づくりに絶え間ない努力をしなければならない。②生徒たちの学力の向上を踏まえた授業づくりも実践したが、模擬試験などの結果を見る限りでは、一部の学年・科目を除いて、良い結果が得られなかった。この点も、目標を達成できている先生方の授業見学や指導助言・意見交換などを行いながら、教科として今後もより効果的な指導方法についての研究・実践を行っていきたい。</p>	C
	理科	<p>■生徒の意欲・関心を高めるため、各教師の取り組みを発表し協議する機会をもつ。</p> <p>■県教委や高教研理科部主催の研修講座に参加し、内容を教科会議等で紹介して理科教師間で共有する。</p> <p>■ICT機器の活用など、授業力向上のために、授業を公開し共有する。</p> <p>■習熟度別授業を実施する際、担当者同士の連絡を密にするとともに、実力テストの内容についてもよく検討する。</p>	<p>〔現状〕 昨年度、研修講座の報告により全体の意識が高まったので、継続してより効果的な方法を模索したい。習熟度別授業のあり方は、まだ十分検討できていない。</p> <p>〔今年度の達成基準〕 ■授業アンケートの質問「授業によって学習内容に意欲・関心が高まった」に対する肯定的な回答 A：85%以上 B：75%以上 C：75%未満 ■3年生センターテストの全国平均との比較 A 平均以上 B 80～99% C 80%未満</p>	<p>■理科の教科会議はほぼ毎週行い、研修報告等の連絡を密にしている。習熟度別授業については、3年生の生物で、希望をとり、4・5組の生徒を対象に2学期中間考査後より実施している。</p>	B	<p>■授業アンケートの結果では、「授業によって学習内容に意欲・関心が高まっていますか」に対する①高まっている、②少し高まっているの計が70%であり、目標には及ばなかった。難易度に関して「難しくついていくのが大変である」の回答が28%あり、意欲的に授業を受けることを困難にしていると考えられる。授業のレベルを維持しながら全員がついていける授業の構築にはまだまだ工夫が必要である。</p> <p>■センターテストの結果（中間発表時）では、化学・生物基礎が全国平均の80%を上まわったが、理系科目は全て80%に及ばなかった。平均点もさることながら、全国平均を上まわる生徒の人数を増やすよう、復習のあり方も考えたい。</p>	C

学校経営目標	担当部署	目標達成のための具体的計画	現状及び今年度の達成基準	中間達成状況と評価		最終達成状況と評価	
				達成状況	評価	達成状況	評価
2 キャリア教育の推進	教務課	生徒の思考力・判断力・表現力を伸ばすために総合的な学習の時間「TACT」の計画・運営について総学係を中心に教務課全体で協議する会をもち、情報を共有しながら、さらに効果的な学習に推進する。	〔現状〕 生徒は進路決定および進路実現に向けての学習に消極的である。 総学係が計画して学年団に周知しているため、係の負担が大きいたとも改善点など多方面のアイデアも出にくい。 〔今年度の達成基準〕 教務課でTACTについて週一回は協議する時間を設け、計画・運営をはじめ、昨年度と比べて改善したことなどを中心に振り返りを行い、次年度につながる体制をつくる。	■昨年度のTACTの学習活動を踏まえて、さらに充実させることを目指して各学年のTACT係で企画・立案したものを毎週の教務課で報告し、協議している。例えば、1年生では訪問する場所が、地域の企業や名所・旧跡などさらに多種から選択でき、担任団でねらいを共有した上でつながりをもって取りかかっている。2年生では、12月に校内で行う生徒のポスター発表会を前に、新たに元アナウンサーを講師に招き、人前で話すことについてのスキルを学ぶことにしている。 ■昨年度と比べて課内では学年を超えてTACTの活動が共有できているが、年度の折り返し地点であり、教務課内である程度まとまった時間をとってTACTについて協議する必要がある。	B	■昨年度のTACTの学習活動を踏まえて、さらに充実させることを目指して各学年のTACT係で企画・立案したものを毎週の教務課で報告し、協議することができた。 1年生では、地域の企業や名所・旧跡など、訪問できる場所を、13か所に増やし選択できるようにした。係だけでなく担任団でねらいを共有した上で連携して取り組むことができた。2年生では、新たに元アナウンサーを講師に招き、人前で話すことについてのスキルを学ぶ講演会を実施し、プレゼンテーション力を向上させた。アンケートでは83.1%の生徒が「TACTの活動がコミュニケーション力やプレゼンテーション力が身に付けることに役立つ」と回答している。 ■教務課では定例の課会が定着し、昨年度と比べて課内では学年を超えてTACTの活動が共有できている。1年生による玉島探究、2年生普通科による未来探究の学習活動も、それぞれ2年目を迎え、実践後の振り返りを行うことができる材料が集まってきているので、来年度に向け、さらに発展させるために、取り組み方やその方法について協議を踏まえて研修をもつことが必要となってきた。	B
		■遅刻や欠席を減らし、登下校時の挨拶を励行するなど、基本的な生活習慣の確立を図るために頭髪・服装指導を行い、身だしなみ指導を行う。授業の始業・終業時の挨拶の励行を図ったり、遅刻を繰り返す生徒に対する指導を行う。	〔現状〕 年度当初に頭髪や服装が乱れている者がときどき見受けられる。また、朝の挨拶運動を定期的に行っているが自ら進んで挨拶できる生徒は少ない。 〔今年度の達成基準〕 ■頭髪・服装について A非常によい Bまあまあ良い Cあまり良くない ■積極的に挨拶できる生徒の割合が A: 8割以上である B: 6割以上である C: 4割以上である D: 4割未満である ※自己評価アンケートを参考にする	■頭髪に関する指導はあまりないが、女子のスカートが短くなっていたり、ブラウスのボタンが外れているなどだらしない生徒も目立ってしまっている。男子もシャツがだらしない出ていたりする。「あいさつ」に関する自ら率先してできる生徒が少ないようであるので、あいさつ運動などを各委員会や部活動などから発信していきたい。	B	■2学期当初交通安全等の街頭指導において挨拶やマナーに対する厳しい指摘をいただくことがあり、マナーの徹底や挨拶の励行などをよりいっそう呼びかけた。自己評価アンケートでは頭髪服装は守れているが93%と昨年とほぼ同じ、挨拶はできているが87%と昨年より少し低下した。これを受けて生徒会執行部も積極的に活動してくれて3学期は多くの委員会で挨拶運動を行い、挨拶運動は年間10回を超えた。生活指導係としても今後の課題として委員会活動を中心として生徒により充実した学校生活が送れるように呼びかけや情報発信をしていきたいと考えている。	B
	■交通法規を遵守し、登下校時における安全性を自主的に管理できるようにするために、積極的な交通事故防止・自転車盗難防止・事故に対する危険予測の確立を図る。 悪天候（雨天・寒天時）でもきちんと自転車通学や公共交通機関をきちんと利用した通学ができるような指導を行い、交通社会の一員として役割を確立させる。	〔現状〕 H26年度は13件の交通事故が発生、また交通マナーの悪さや交通法規を破ったりしたことを指摘される苦情が寄せられるなどの傾向が見られる。雨天時の保護者の送迎による苦情もあった。また自転車盗難が4件あり。 〔今年度の達成基準〕 A:月に1度交通新聞を発行する B:学期に1回発行する C:未実施である。	■1学期各学年で交通LHRを実施、登下校の安全確認や自転車走行中の危険予測などについて学習したが、9月中旬までに事故が5件また秋の交通安全街頭指導期間中にも1件発生している。また、白華祭終了後に自転車の2人乗りを4件指導するなど、また交通安全について自覚のない生徒がいるので、並進指導や交通新聞の発行など委員会の生徒を中心に厳しく指導していきたい。	B	■2学期に1学年はJAFより講師を招いて、講演会を行うことでLHRを実施することができた。また、2学年では交通新聞を2回発行することができ、当初の目標を果たすことができた。1学年の交通LHRでは生徒は、自転車事故における危険予測や自転車事故などが引き起こして加害者となる場合の損害賠償請求については、かなり興味を持っている生徒もおり、理解を深めることができた。ただし、交通事故件数は10件（1年6件）で安全教育の継続は今後も必要である。	B	
	■生徒会活動・委員会活動をより主体的に行わせ、生徒の自主性を育むために、生徒会執行部、各種委員会の委員長、副委員長で構成されるリーダー研修会を定期的実施をする。	〔現状〕 委員会活動が積極的にに行えているところとそうでないところがある。また、生徒会活動・委員会活動の様子が一般生徒にあまり伝わっていない。 〔今年度の達成基準〕 A:月に1回以上のリーダー研修会を実施する。 B:学期に1回のリーダー研修会を実施する。 C:未実施である。	■1学期についてはリーダー研修会が実施できていない。2学期中にはリーダー研修会の日程調整や内容を決め、各種委員会委員長や部活動部長、そして生徒会執行部で委員会活動・生徒会活動がより活発におこなえるような話し合いの場を設けていきたい。また、これらの活動を一般生徒にも生徒会新聞等を利用して知らせいき、学校全体で考えていけるような取り組みにしていければと考えている。	C	■2学期に生徒会主催の第1回リーダー研修会を実施することができた。各種委員会の委員長と生徒会執行部で玉島高校の現状とこれらについて活発な意見交換を行うことができた。この活動を通して、各種委員会の委員長は委員長としての自覚が芽生え始め、「こんな活動を委員会ですればおもしろいかも」などと様々な意見を出し合うことで、自己肯定感も高まってきている様子がみてとれた。今後は、話し合った内容を各委員会に持ち帰り、委員会の活性化につなげていく予定である。それをうけて、第2回のリーダー研修会を3学期に開催することになっている。このリーダー研修会の内容については、生徒会執行部が生徒会新聞を通じて一般の生徒にも伝えていき、様々な意見交換を行うことで学校を活性化していければと考えている。	B	
進路指導課	■総合的な学習時間「TACT」を中心に探究心を高め、総合的な学力を養成するために、総合学習係と連携し、進路講演会（「進路実現に向けて」「難関大学合格のために」「推薦AO入試プレゼン講座」「推薦AO面接講座」など）を各学年1学期に1回以上行う。	〔現状〕 昨年度、1月の家庭学習時間は、1、2年生は2.7時間、3年生の：3.0時間であった。ベネッセのスタディーサポートの全国平均よりも学習時間は多いが、国立大学に進学するためにはまだまだ学習時間は足りていないのが現状であり、進路意識をさらに向上させる必要がある。 〔今年度の達成基準〕 ■進路講演後のアンケートの評価の「役に立った」の数値(割合)で評価する。 A:60%以上 B:50~59% C:50%未満	■家庭学習平均時間(4月) (1年生) (4月)平均2.3時間→(9月)2.2時間 (2年生) (4月)平均2.6時間→(9月)3.2時間 2年生は4月から9月の学習時間はよく伸びているが、1年生は逆に少し減ってしまった。2年生は目標達成のための具体的計画にある学年会での検討や担任による生徒面談によって生徒の意識が変わってきているのだと思う。1年生は放課後を使って週末課題の未提出者を指導するなどして対策を立てているので、今後は伸びてくると考えられる。進路講演会は現在まで1年は3回、2年は2回、3年は3回行った。現在までの生徒へのアンケートの結果では「役に立った」と答えている生徒の割合が77%であるので、時期・講師とも適切であったと思われる。講演会での生徒の反応も良かった。	B	■家庭学習平均時間(1月) (1年生) (4月)平均2.3時間→(1月)2.2時間 (2年生) (4月)平均2.6時間→(1月)3.0時間 2年生は4月から9月の学習時間はよく伸びているが、1年生は逆に少し減ってしまった。2年生は目標達成のための具体的計画にある学年会での検討や担任による生徒面談によって、生徒の意識が変わってきている。1年生は放課後を使って週末課題の未提出者を指導するなどして対策を立てているので、今後は伸びてくると考えられる。進路講演会は現在まで1年は3回、2年は3回、3年は4回行った。現在までの生徒へのアンケートの結果では「役に立った」と答えている生徒の割合が75%であるので、時期・講師とも適切であったと思われる。講演会での生徒の反応も良かった。3年生の国立大学の推薦AO入試合格者は45人と去年と比べると20人増えているので、推薦・AO対策の実践的な講演会を行ったのがよい結果に繋がった。	B	
	生徒が主体性を身につけ自信を持つことが出来るように ■図書委員会の活動として、地域の文化について調べたことをもとにして、白華祭や県立図書館ティーンズコーナー展示に参加する。	〔現状〕 前年度は、玉島の歴史と景観について講座や取材に基づいた展示を通して、図書委員の地域に対する関心を高め達成感を味わわせることができたが、今年度の図書委員の意識はまだ低いので意義を考えさせ主体的に活動できるよう支援する必要がある。 〔今年度の達成基準〕 A展示ができる。 C展示ができない。 事後の振り返りアンケートにおいて生徒の成長が見られる。	文化祭において、「再発見玉島の底力Ⅱ」と題して、「玉高のお宝『玉芳亭』」の展示を完成させた。しかし、熱心に活動した図書委員が一部に限られていたのでBとする。後半では、図書委員会の活動の活性化をはかり、県立図書館展示を成功させたい。	B	■図書室の書庫から見つけた資料をもとに、茶道部との協働で玉島の茶の湯文化や茶道についての学習会を二度行った。(参加者14人)。白華祭で学習内容を発表する展示を行い、県立図書館の展示にも参加した。(展示物作成には7人、県立図書館展示には4人が参加。) ■一年生の図書委員2名が備前、備中区の図書委員との交流会にも参加して、本校の活動内容を発表。POP作成講習に参加し活発に活動した。二年生の図書委員は、LHR読書会の企画運営に取り組んだ。しかし、主体性という点では課題が残るのでB。	B	

学校経営目標	担当部署	目標達成のための具体的計画	現状及び今年度の達成基準	中間達成状況と評価		最終達成状況と評価	
				達成状況	評価	達成状況	評価
	企画広報課	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会で貢献できる人材をめざす機会を提供するために、地域連携（ボランティア）活動、社会貢献活動を通して地域と密に連携していく。</li> <li>また、新しい分野の開拓に取り組んだり、ボランティアの意義を学ぶ機会を設けることに努める。</li> </ul>	<p>〔現状〕</p> <p>1.2年で5回以上の社会貢献活動を行っているが、意義について学べていると感じている者は「そう思う」「ややそう思う」を含めて60%程度となっている。</p> <p>〔今年度の達成基準〕</p> <p>アンケートの実施によって、実施後にボランティアの意義についての振り返りを行う。</p> <p>A：そう思うが60%以上 B：そう思うが50%以上 C：そう思うが50%未満</p>	<p>■10月時点で2年生2回、1年生1回の社会貢献活動を行っているが、各学年の活動に適した講演会を事前に取り入れたことで、意義を学ぶ機会となったと思われる。新しい分野の開拓に向けて関係機関と連絡は取りつつあるが実現しておらず、今後の課題である。</p>	B	<p>■1月時点で1、2年生とも今年度各2回の社会貢献活動を行っている。3月に各学年とも3回目を予定しているが、クラス単位の取り組みということもあり、冬休み・LHRを利用して内容を提案し検討し合う「事前指導」の時間もしっかり取れた。また今年度、新規に活動させていただく事業所が2カ所開拓できた。</p> <p>■毎回活動後に行うアンケートにおいて、社会貢献の意義が学べていると回答した生徒は80%を超えている。また、1年生では「達成感・充実感」を感じている生徒が最も多く、2年生では「思いやる心・人との繋がり」が学べたと回答する生徒が最も多かった。今後は、自己肯定感が高められるような活動内容や事前事後指導に取り組んでいきたい。</p> <p>■1月末時点での自主的ボランティア活動に参加した者は、のべ309名となっており、昨年より123名増加している。</p>	A
	理科・SSH	<p>科学技術の各領域を知り将来像を具体化し、さらに探究心を高めるため、科学者・技術者による講演会を実施する。さらに、研究施設研修を企画・実施したり、外部機関が実施する科学系体験プログラムの情報を伝えたりし、より高度な学問や研究に触れる機会を多くつくる。</p>	<p>〔現状〕</p> <p>理数科1年生を対象に、講演会を実施している</p> <p>〔今年度の達成基準〕</p> <p>事後アンケートの質問「研究分野に対する興味・関心が高まった」に対する肯定的な回答が A：85%以上 B：60%以上 C：60%未満</p>	<p>■情報講演会が実施済みであるが、アンケート集計が済んでおらず興味・関心の変化についてはまとめられていない。他の教科・科目も今後実施予定である。</p>	B	<p>■各領域それぞれで、研究者の姿や研究と社会との結びつきなど、具体的な内容の講演がなされた。いずれも、「興味・関心が高まった」という項目に対する肯定的な回答が85%を上まわっており、講師の選定や内容に関して、目標を達成できた。</p>	A
	3年	<p>生徒が自己の関心、長所、適性などを理解し、明確な将来像を持つことができるように、総合的な学習の時間(TACT)やロングホームルームの中で志望理由書の作成に取り組ませる。さらに、この志望理由書の作成を個々の学習意欲の向上へとつなげる指導をおこなう。</p>	<p>〔現状〕</p> <p>生徒の多くが将来像について漠然とした考えしか持っていない。</p> <p>〔今年度の達成基準〕</p> <p>■志望理由書の作成を通して、自身の興味・関心や長所を理解し、明確に将来像について表現できるようになった生徒の割合を調査する。調査はTACTの振り返り活動の中で学年独自のアンケートでおこなう。 A：85%以上 B：70%以上 C：70%未満</p>	<p>■1学期のTACTを振り返ったアンケート調査では、「志望理由書の作成を通して、自分の興味関心や長所を理解し、将来像について表現できるようになった」と回答した生徒は約56%であった。また、「志望校合格に向けて学習意欲が高まった」と回答した生徒は64%であった。2学期は実際に志望理由書を書く生徒に対して、1学期の活動を活かす指導を行っていく。</p>	B	<p>■AO・推薦入試出願者に実施したアンケートでは78%の生徒が1学期のTACT（志望理由書の作成）が役に立ったと回答している。また、AO・推薦入試を受けなかった生徒の中にも、志望校合格に向けて学習意欲が高まった生徒がおり、1学期のTACTは自身の将来像を考えるよい機会であったと考える。</p>	B
	2年	<p>コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力、キャリアプランニング能力を養成し、将来像を具体化・明確化させるために、TACTの活動に積極的に取り組ませる。</p>	<p>〔現状〕</p> <p>将来像を具体的にイメージできないので、進路実現に向けた主体的な取り組みも不十分である。</p> <p>〔今年度の達成基準〕</p> <p>TACTの独自アンケートで、分野別課題研究が進路実現に向けた取り組みになったと答えた生徒の割合 A：80%以上 B：70%以上 C：70%未満</p>	<p>■TACTの分野別課題研究にグループごとに取り組んでおり、担当教員のアドバイスを受けて資料を収集したりアンケートを実施したりしている。TACTの独自アンケートをまだ実施していない。</p>	B	<p>■TACTの分野別課題研究が進路実現に向けた取り組みになったと答えた生徒の割合は80%を超えており、目標は達成できた。今後は個人での課題研究の振り返りをもとに、志望理由書の作成に取り組ませ、進路希望の明確化を図っていきたい。</p>	A
	1年	<ul style="list-style-type: none"> <li>進路志望と適性に則した文理選択が行えるために、面談や日常の声かけを通して生徒個々の興味・関心を把握して適切な指導を行う。</li> <li>自主性や協調性を育てるために、部活動・学校行事・社会貢献活動に積極的に取り組むよう指導する。</li> <li>コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を育てるために、TACTの活動を活用する。</li> </ul>	<p>〔現状〕</p> <p>部活動やTACTでの活動を通じて、自己理解の深化を図り、進路選択に有用な情報を適宜提供することで、主体的な文理選択を促す必要がある。</p> <p>〔今年度の達成基準〕</p> <p>■TACTの独自アンケートで、「コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を身につけることが出来た」と答えた生徒の割合 A：80%以上 B：70%以上 C：70%未満</p>	<p>■「TACTの活動を通じてコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を身につけることが出来たか」という質問に対し、挙手によって調査したところ、出来たと答えた生徒は83.9%で中間評価はAとなった。</p> <p>4月～9月の6ヶ月間で、担任による面接は4回実施したクラスもある。個々の生徒の進路志望や学習状況を学年団で共有し、面接時に適切なアドバイスが行えるよう取り組んできた。</p>	A	<p>■評価アンケートの「TACTの活動はコミュニケーションやプレゼンテーション能力を身につけることに役立っている」という質問に対して、役立っていると回答した生徒の80.2%で、最終評価はAとなった。</p> <p>■文理選択や進路目的別クラス編成を題材に、担任が生徒面談を繰り返したり、学年団で情報を共有しながら個別指導に取り組み、進路意識の向上に努めることが出来た。学校生活に充実感を感じている生徒が多いためか、欠席が少ない。</p>	A

	学校経営目標	担当部署	目標達成のための具体的計画	現状及び今年度の達成基準	中間達成状況と評価		最終達成状況と評価	
					達成状況	評価	達成状況	評価
3	地域との連携の推進	教務課	地域社会の理解を得て、本校教育活動に対して支援や連携をしていただくために、本校の授業公開や成果発表会を地域へ積極的に情報発信するとともに、本校教員が案内するなど来校しやすく工夫する。また、中学校で行われる授業公開の情報を本校教員にアナウンスして、教員間の交流を促進する。	【現状】 11月で行う恒例の公開授業期間において、外部から来校される見学者がほとんどいない。また、前年度は周辺の中学校の授業見学へ参加した実績がない。  【今年度の達成基準】 公開授業期間に来校者および本校から中学校へ参観に行く教師が10人以上に増える。	■学校に届いている公開授業の案内文書および近辺の中学校の学校開放日を調査して一覧にまとめ、全教員にアナウンスした。さらに若手教師を中心に、個々に参加を勧める取り組みもしている。10月に本校教員が玉島東中学校へ5名、玉島西中学校へ7名、玉島北中学校へ2名、それぞれ訪問し授業を参観した。 ■本校のおかやま教育週間に関わる取り組みである学校開放日について、来校者を増やす目的で、教員（教務課と各学年団）が来校者を案内ができる体制を整えた。実施に当たり、秋のオープンスクールやPTA委員会、玉島テレビでも宣伝し、取り組みを推進したところ、13名の来校者があった。	A	■全教員にアナウンスするため、学校に届いている公開授業の案内文書および近辺の中学校の学校開放日を調査して一覧にまとめ、文書とともに職員室にファイルにして置くようにした。併せて若手教師を中心に、個々に参加を勧める取り組みも行った。10月に本校教員が玉島東中学校へ5名、玉島西中学校へ7名、玉島北中学校へ2名、それぞれ訪問し授業を参観し、研修するとともに地域の中学校との交流を促進することができた。 ■本校のおかやま教育週間に関わる取り組みである学校開放日について、来校者を増やす目的で、教員（教務課と各学年団）が来校者を案内ができる体制を整えた。実施に当たり、秋のオープンスクールやPTA委員会、玉島テレビでも宣伝し、取り組みを推進したところ、13名の来校者があった。そのほとんどが教員による案内を希望され、1時間以上見学されたことから、効果的な取組であったと考えられる。	A
		進路指導課	■学校の情報を積極的に発信し、学校の魅力を地域社会に強くアピールするために、進路だよりを、学年毎に年8回以上発行する。保護者にも読んでもらうように終礼時に担任が読み、保護者にも読んでもらうように指導する。また合同保護者会では学年主任と相談し各学年で生徒の進路に必要なことを資料にし、伝える。 ■本校HPでの進路指導に関する情報を充実させる。	【現状】 進路だよりや個人懇談や合同保護者会に向けての進路指導に関する資料を作成している。また、合同保護者会での進路指導に関する説明時間をいただきしっかり説明している。 【今年度の達成基準】 ■学校自己評価アンケートの「学校は進路についての適切な情報をタイムリーに知らせてくれる」の「そう思う」の数値(割合)で評価する。 A: 60%以上 B: 50~59% C: 50%未満	■まだ学校評価アンケートの結果が出ていないが、進路だよりは現在までで1年生は14回、2年生は9回、3年は13回発行して家庭との連携を深めようとしている。本校のHPには進学実績と土曜活用講座の内容などを載せているが、今後はHPの充実のために進路講演会の内容と写真などを載せていく予定である。	B	■学校自己評価アンケートの「学校は進路についての適切な情報をタイムリーに知らせてくれる」の割合は45.4%であった。「ややそう思う」は45.5%であり、両方足すと90.9%という高い割合であった。「そう思う」は50%に足りていないが、他の質問項目と比べると2番目に高い割合であり、昨年度は40.6%であったので、少し上がっている。進路だよりは現在までで1年生は18回、2年生は13回、3年は17回（3年間で59回）とたくさん発行して家庭との連携を深めた。本校のHPには進学実績と土曜活用講座の内容などを載せているが、HPの充実のために進路講演会の内容と写真などを載せた。	B
		図書課	■図書委員会の活動として地域の文化や読書に関わる講座を実施する。 (読み聞かせボランティア養成講座など年2回程度)	【現状】 前年度は、玉島の歴史と綿作りについての講座、児童文学作家による本との出会いについての講座、NIE講座を通して、地域について情報発信や地域の方との交流ができた。今年度の図書委員の意識はまだ低いが、取り組みの計画ができたので講座の実施を通して地域の文化や読書についての感心を高める必要がある。 【今年度の達成基準】 A 文化講座が2回以上実施出来る。 B 1回は実施出来る。 C 実施出来ない。	■6月に文化講演会として、作家片野ゆか氏の講演を実施した。後半では、本校卒業生を講師にして文化講座を実施する予定である。	B	■6月にノンフィクション作家片野ゆか氏を迎え「動物との共生、その先にあるもの」と題して、2年生の生徒全員を対象とする文化講演会を実施。講義ノート形式のワークシートを用意し、メモを取りながら熱心に聴講した。 ■7月と8月に茶道部と図書委員で茶の湯についての学習会を実施した。振り返りシートによると、「玉島と茶の湯について伝えたい。」「茶の湯の歴史を知りたい。」などの感想が見られた。三学期末にも2回目を実施する予定である。 ■2年生の図書委員は、委員会で読書会についての研修を行い、それをもとにLHR読書会を企画運営した。初めての試みであったが、振り返りシートの記述からは真面目に取り組みしており、面白さを見つけたという記述も見られた。	B
		企画広報課	■「地域から期待される学校」、「活き活きと活動する学校」づくりのために、校内外の必要な情報を収集・発信する。 ■特に今年度は、生徒会（委員会・部活動）と協力し、生徒が主体となる活動や広報誌づくりに努める。	【現状】 学校説明会・オープンスクール等で本校の取り組み・魅力を発信しているが、受検者数は近年定員を下回っている。 【今年度の達成基準】 地区別説明会・オープンスクールにおいて参加者が昨年より増加する。また、広報誌「玉高NOW」の発行回数を増加する。 A: 10%以上増加 B: 現状維持 C: 減少	■夏のオープンスクールの参加数（中学生）458→460 秋のオープンスクールの参加数（中学生）135→170 地区別説明会（4地区合計）54→91 上記の通り参加者は増加しており、入学に対し意欲的な質問も多く見られた。玉島テレビによるTAMAKKO TIMEの影響か、理科に関する質問も多く好感触である。下半期も志願者増に向け、積極的に本校のアピールポイントを伝えていきたい。 ■広報誌「玉高NOW」は現在第4号まで発行しており、昨年の同時期と比較すると同じ回数になっている。中学生の受験校決定の時期でもあり、早めに次号を作成したい。	B	■各広報行事での参加者数が増加し、また玉テレによる支援もあって、昨年度より重点的にPRしてきた理科では、前年より多い入学希望者数となった。 ■広報誌「玉高NOW」は昨年と同じ回数の発行に留まっているが、誌面内容については高校生の声を多く載せるなどの工夫を行った。今年度より近隣の公民館や図書館にも拡大版を持ち込み掲示を依頼したところ、快く掲示していただけたので、今後は訪問施設を新しく開拓するとともに、内容の充実にもあたりたい。	A
		理科・SSH	■サイエンスフェアの内容を工夫し、小・中学生の興味・関心を高める。	【現状】 小・中学生を対象に1回ずつ実施。  【今年度の達成基準】 ■事後アンケートの質問「行事によって自然科学に対する意欲・関心が高まった」に対する肯定的な回答  A: 85%以上 B: 70%以上 C: 60%未満	■中学生向けのサイエンスフェアを7月28日のオープンスクール時に実施した。11月21日実施予定の小学生向けのサイエンスフェアに向けて、担当生徒の指導などを充実させたい。	A	■秋の小学生向けサイエンスフェアでは、計画段階での生徒グループの相談時間を十分設けることで、工夫に富んだブース実験が行われた。参加者全員が科学体験を楽しみ、行事に対する肯定的な回答を示した。	A
		SSH	■地域社会と交流し、小・中学校とSSH校の接続を図るため、小・中学生を対象とした玉島サイエンスフェア（本校生徒が企画・運営する科学実験、数学クイズ等）を充実させる。また、地域の小中学校等の教育関係者を対象として自由研究の指導や教材開発・実験機器等のサポートを行う。	【現状】7月のオープンスクールにおける、中学生対象の玉島サイエンスフェア、11月末に小学生対象のサイエンスフェアを実施した。 【今年度の達成基準】 玉島サイエンスフェアと交流の機会が合わせて A: 3回以上 B: 2回以上 C: 1回以下	■中学生向け1回は実施済み、小学生向けのは11月21日実施予定で準備をすすめている。他に、「玉島市民交流センター2015夏講座」で小学生・保護者向けの実験を行い、さらに夏休みの宿題等の質問に答えた。 ■科学の祭典（倉敷）に出展する実験ブースのスタッフとして、初等教育等を志望する普通科文系生徒を中心に、参加者を募集した（16名が参加予定）。 ■教育関係サポートは、小中学校に書類でサポートを伝えたが、希望者がなかった。呼びかけを強化したい。	B	■小学生対象の玉島サイエンスフェアに児童24名+保護者数名+玉島小教員の参加があり、本校生徒は26名が携わった（26名中13名は普通科生徒）。 ■「夏講座」で小学生・保護者向けの実験を行い、さらに夏休みの宿題等の質問に答えた。 ■科学の祭典や「玉島市民交流センター2015夏講座」で科学ボランティアとして児童・生徒らと実験観察を通して交流を深めることができた。 ■教育関係サポートは、時期や内容において今後の課題となった。	B